

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 彩都の丘学園 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☒ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒562-0029  
大阪府箕面市栗生北2-1-5  
E-mail saitonooka@maple.city.minoh.lg.jp  
Website http://www.city.minoh.lg.jp/saitonooka/  
幼児児童生徒数 男子 489名 女子 463名 合計 952名  
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「夢・未来に向けて自ら“学ぶ・鍛える・つながる”子どもの育成」を学校理念として、ESDを自らの行動を変革するための教育と捉え、ESDの実践を通して自分やまわりの人、社会、自然を尊重する力の育成を目標とした。具体的には、豊かな心づくり、国際理解、食育、社会環境、防災を柱に、①豊かな心づくりに係わる活動、②国際理解に係わる教育、③食を通して考える教育、④環境問題に係わる学習、⑤防災に係わる学習を行った。

### ① 豊かな心づくりに係わる活動

●地域の組織である「彩都の丘小校区青少年を守る会」と共同で、花いっぱいプロジェクト活動を開催した。この取組は、開校初年度から継続実施しており、プラグ苗からポット苗に移すところから始め、花が咲いた時点で半分を学園内の花壇に、残り半分を地域の公園に移植していくものである。この取組を通して、人々の縦横の結びつきを強めるとともに、地域力の再生を図って行くことを目的としているが、徐々にその効果が現れてきている。【土曜日開催の行事】



## ② 国際理解に係わる教育

●校舎1階廊下の壁面に設置しているスカイプを通じて、ニュージーランドハット市の学校と日常的に交流を行うことで、双方の文化を学びとることをはじめとした国際理解と国際交流が進んだ。

●箕面市国際交流協会の支援のもと、5か国（ロシア・タイ・イラン・モンゴル・中国）から講師を招き、自国における衣食住の文化ならびに文字や数の数え方などを体験的に教えていただくことで理解を深めた。



## ③ 食を通して考える教育

●栄養教諭を中心に各学年に応じた食育の授業を行い、健康と食についての理解を深めた。また、年間5回の土曜日に親子クッキングや児童生徒が調理をしながら食について考える「キッズ食クラブ」の取組を行った。



#### ④ 環境問題に係わる学習

●大阪大学環境サークルG E C S（ゲックス）の協力を得て、体を動かしながら環境やエコについて楽しく学べる「環境×運動会」を開催した。運動会の種目は、環境問題を学べる「障害物リレー」、ゴミの仕分けを覚えられる「玉入れ」、森林伐採をテーマにした「陣取り」、水の循環を目と体で感じられる「リレー」、環境にまつわる問題が出題される「謎解きクイズ」の計5つであり、参加した子どもたちは、イベント終了後、競技を通して学んだことを振り返り、感じた事や得た知識をしっかりと復習した。

●大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センターと箕面市昆虫科学教育館から講師を招き、最寄りの公園（彩都なないろ公園）にて3年生を対象に課外授業を実施した。公園内のビオトープにどんな生物がいるのかを観察したり、実際に採取したりした。その後、水生生物センターの講師が水辺の生き物の写真パネルを使い、色々な環境があるから多彩な生物が棲めることなどを教示してくれた。緑地帯では、昆虫科学教育館の講師が、カマキリの生態や触り方などを解説してくれ、その後、実際に触れ合ったり、公園内には他にどんな昆虫がいるのかを調べたりした。今回の取組では、自分たちの身近な公園で発見したり、触れ合うことで、生物同士のつながりや生態について学ぶことができた。

●児童生徒会が中心となり、服のカプロジェクトに参加したり、ペットボトルキャップや牛乳パックの回収運動を推進したりする中で、各自が環境問題について考えた。



#### ⑤ 防災に係わる学習

●市内一斉の総合防災訓練における地区防災委員会とタイアップした避難所開設訓練や防災倉庫の見学など、命を守ることの大切さや地域防災への理解を深めるとともに、緊急時には適切な対応がとれるような取組を行った。



### ① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	■ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他( )		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 年間数回の土曜日 )	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

９年間の連続性を重視した教科横断的な指導計画を立案するとともに、小中共通の授業スタイルを示した「箕面の授業の基本」の活用やユニバーサルデザインの観点に基づく授業実践など、小中学校９年間をつなぐ一貫した授業づくりの研究に取り組んでいる。教職員一人ひとりが「小中一貫校」としての責任と自覚のもと、校種・職種・教科の枠を越えた研究授業や研究協議を重ね、子ども理解に基づく「わかる授業づくり」に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

負担感を抱かずに末永く継続的に行なうためには、ユネスコスクールの取組は特別なものではなく、「日常的に大切にしている取組そのものがイコールでつながっている」といった意識づけを教職員全体に対して行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ＥＳＤ活動を含め、教育活動全般に関する保護者や地域のニーズを把握することにより、学校経営改善の方策を明らかにするとともに、その結果を保護者・地域と共有し、今後の教育活動の充実を図るために「学校教育自己診断アンケート（無記名式）」を実施している。その結果を最近５年間の経年比較で見えてみると、『災害時における対応の周知』が最高値を示す一方、『豊かな心を持った子どもの育成』が昨年度の最低値から改善できていないことが明らかとなった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

９年間をつなぐ自立した学びの創造～「いいね！その考え」「わかるっておもしろい」～を研究テーマに設定し、『意欲』『解決』『メタ認知』を授業づくりの基本において取り組んできた。今年度は「算数・数学科」「理科・生活科」「外国語活動・外国語科」の３つの教科部会から計７つの授業を公開研究会として位置づけ、２月１６日に発表した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

活動内容にも記載しているが、主に地域の組織である「彩都の丘小校区青少年を守る会」・「地区防災委員会」・箕面市役所関係課・箕面市国際交流協会・彩都建設推進協議会・大阪大学環境サークルGEC S（ゲックス）・大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター・箕面市昆虫科学教育館等との連携を図ってきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

他校との交流実績については皆無の状況なので、まずはユネスコスクールの研究大会に参加することでつながりを作っていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

児童生徒の一人ひとりが、身近な課題を社会的な問題として捉えとともに、それを解決するためにも身近なことから取り組むことの大切さを学んでくれるような工夫を図って行きたい。

また、様々な立場の人たちから多くのことを学べるように、今後も大阪大学外国語学部をはじめとした外部機関とのつながりを強固なものにしていきたい。